

令和7年度移動支援研修会を開催

～住民主体の移動支援、現状と今後について～



全国的に高齢化が進んでいます。このことは橋本市でも同様です。（橋本市の高齢化率 35.1% 令和7年4月1日現在）そんな中、これからも自分たちが住む地域で、安心して暮らし続けるためには、いざという時に駆けつけてくれたり、ちょっとしたお手伝いを頼めるような地域を創っていくことが必要です。そのために、日ごろから声をかけあったり、気にかけていたりするような地域づくり「つながりのある地域」が大切です。橋本市では、地域づくりの基盤となる「協議体」を市内各地域に設置し、住民のみなさんが主体となつて話し合いが進められています。現在、10地域に第2層協議体が設置されています。協議体の進捗状況や地域の取り組みなどを紙面にてご紹介します。



関西 STS 連絡会 柿久保浩二氏

去る、8月28日(木)橋本教育文化会館において、令和7年度移動支援研修会（生活支援体制整備事業）を開催しました。テーマは「住民主体の移動支援」。高齢者の日常生活の困りごと、特に移動手段の問題について、

移動支援の実態や事例、法令等を学び、住民主体による助け合い活動の醸成を高め、あらたな人材の発掘と人材不足が課題になっている既存の活動団体への活動参加につなげていくことを目的に開催しました。講師には関西STS連絡会の柿久保浩二氏をお招きして「住民主体の移動支援、現状と今後について」と題してお話しをいただきました。

※STSとはスペシャル・トランスポート・サービス (Special Transport Service) の略で、「高齢者・障害者など外出の困難な人が、通院・買い物・観光など目的は多種多様ありますが、日常生活の移動手段として、リフト付車両などによる、目的地までの介助も含めたドア・ツー・ドアの個別移送・移動を行うサービス」のことです。

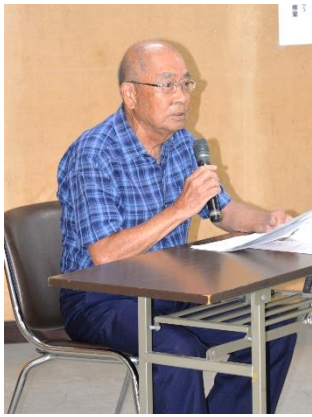
また、当日は市内で移動支援の活動を行っている4団体からも活動発表いただきました。

おたがいさん



柿の木坂区を拠点に買い物や病院への送迎活動を行われています。西幸二様から発表いただきました。

友愛ヘルプ隊



城山台を拠点に生活支援活動、お買い物送迎支援活動、移動支援活動を行われています。浅井徹様から発表いただきました。

NPO法人ささえあい橋本



福祉有償運送事業、買い物のお手伝い、生活支援活動等を市内全域で行われています。吉田晴紀様から発表いただきました。

ささえ愛高野口

高野口地域を拠点に、生活支援活動を行っており、令和6年度からは、移動支援も行われています。

柿久保さんからは、「国の方でも、移動支援の必要性や重要性が理解され、法令も緩和されてきています。一方で、活動している団体が継続を維持していくための大きな問題は運営資金とドライバーの不足が共通した課題になっていきます。このような課題について一緒に考えていきたい」と話されました。

また、これから活動を始めた方へは、「3人集まれば始められますし、ドライバーでなくても事務が出来る方も必要なので、得意なことと協力してもらえればと思います」と話されました。左記にアンケートの一部を抜粋して掲載しています。

参加者からの声



【講演について】

- 道路運送法における許可、登録を要しない運送の条件が変わったことも知りませんでした。法令改正の内容をお聞きできて良かった。
- 1時間では足りなくてもっと聞きたかった。

【活動団体の発表】

- 人のつながり、顔みしりになることの大切さを更に痛感。各々の活動報告、素晴らしいです。刺激を受けました。
- 長年活動している団体をはじめて知る機会にもなったので聞けてよかった。
- 苦労話も聞きたかった。

【希望する研修会】

- 移動支援の活動している団体で集まれる機会があればと思います。
- 移動支援中の介護や介助の世話を学べる研修。